

■学校経営のポイント

授業力の向上—授業の観察と指導

小島 宏

児童生徒の学力定着の鍵を握っているのは、教員の授業力である。教員の授業力向上には、校内研究・研修とともに、管理職による授業観察と指導が大きな役割を果たしている。

授業観察の目的

管理職の授業観察の目的には、主に「自己申告書への取組状況の確認」や「授業力向上への指導」及び「授業改善の状況の確認・指導」の3つがある。

事前の授業観察の視点の明示

授業観察シート(観察の視点、評価、良い点＆課題、面談計画と記録など)を作成し、事前に全教員に配布し、管理職の授業観察の目的を周知するとともに、自主的な授業改善の意欲を喚起する。

授業が主眼であるが、学級経営、生徒指導、人間関係、学習環境、教育課題(いじめ、スマホ、ESD、UD等)への対応等も必要に応じて観察する。

まず教員の自己評価

授業観察シートを配布し、中間時点で自己申告書の記述を中心に、教員に自己評価をさせる。

学校公開時の保護者の評価、児童生徒による授業評価など様々な外部評価に加え、自己評価(振り返りやメタ認知)により、自分の授業等に課題意識を持たせることが重要である。

指導のポイント

事前に指導案(略案、本時案)を作成・提出させて概要を把握した上で、授業観察シートに基づいて観察する。具体的には知識・技能(児童生徒理解、指導計画・評価計画の作成、専門性、指導技術など)、意欲(意欲的関わり、分かる授業づくりの創意・工夫など)、実践(課題や教材の工夫、指導と評価と支援の工夫、ICT活用、指導技術など)等について観察する。

まず、「①良い点を見つけ知らせ認め褒める、②そ

の上で、さらに良くなるように改善点や新しく取り入れたいことの注文を付ける、③今後の課題を明確に持たせる、④反論や言い訳を含め意見を寛容に受け止める」ことがポイントである。

授業の観察と指導の記録

授業観察の結果と、これに基づいて指導したことを、個別の授業観察シートに簡潔に記録しておく。記憶は曖昧になり、あてにならないからである。

そして、データと事実に基づいてその後の指導を継続的に進めることが肝要である。そうすることによって、教員の努力や進歩の状況を見取ることができるとともに、悩みや質問に対しても適切な指導と対応ができるようになる。

進歩を認めることが重要

ややもすると1回目に観察した結果のみで、教員の授業力を踏みする傾向がある。

しかし、重要なのは、自分を高めようと研究し、工夫し、実践し、倦まず改善する教員を育てることである。そのためには、上記①②③④に加え「⑤努力によるその後の進歩を認め、褒め、意欲づけること」である。

若手教員の指導

現在、若手教員が増加している。同僚との学び合い、先輩教員への相談や質問などを奨励する必要がある。教員同士が学び合う学校文化を大事にしたいものである。若手教員の中には、先輩教員からの指導に反発したり、敬遠したりする傾向がある。先輩教員からの善意のおせっかいや注意、指導の受け止め方の指導も必要な状況がある。

《参考文献》

小島宏『自己申告・授業観察の面談で困った時に開く本』
教育開発研究所、2012年。

(こじま・ひろし=公益財団法人豊島修練会理事長)

●授業力不足の教員をつくらない指導法はこれ！

結果が出る 小・中OJT実践プラン 20+9

【編集】千々布敏弥 A5判・240 頁／定価(本体 2,100 円) + 税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

